

夕立の懐しき匂い友思う
焼茄子の匂いが誘う台所
門跡の声なつかしや三千院

幸美



富子

もみ茄子を義父に供へる七回忌
夕立をもともせずスニーカー
梅雨空にそだけ光る青ピアス

富子

富江

○茄子畑にかくれた事も昭和の香
○おにゆりやスツクと立ちて風を呼ぶ
糸蜻蛉走行車内素通りか

千代

千代

美貴

○夕立にからくり時計隠れけり
朝空の光をこぼす初なすび
土手道のランナーたたく夕立かな

文子

弘

○夕立の過ぎるを待たず駆け出す子
海桐咲く太鼓の練習島の子ら
早朝に蟹も参るや女坂

初江

丞子

○糠漬けの色良き茄子母達者
○塩飴を一つはおばり炎天へ
大夕立路面電車に借りる傘

焼き茄子やバター正油の皿五つ
落し文手おとぶみにころがして季語学ぶ
二時間の列もいとほぬ土用鰻

郁子

○くぎ一本茄子の紫紺の晴れやかに
さよならも言わず駆けたる夕立かな
鈴虫の白きひげ振る昼の黙もだ



酔花

唇にまっすぐにくるコロナ菌
耳朶に海の音する桜貝
十万円今にも届くコロナ税

夕子

○自転車の少年ゆだち突つ切つて
○汁の実に一走りして挽ぐ茄子
車まで大夕立を駆け出しぬ

万貴

深刻な話は途切れ蝉の声
端っから不用不急よ椎の花
私のレモンなどころへ効いてくる

さえ

石段に置きたる傘へ蝸牛
蜻蛉の尾つんつんとして庭の池
浮世絵のごとく斜めに走り梅雨

一枝

○はちきんの卒寿と潜る茅の輪かな
○ねじ花の方程式のやうに咲く
院長の育てし路地のミニトマト

味元 昭次 作品

長茄子を振り悪妻に抗いぬ
丸茄子は祖母の魂です夕間暮
コロナ禍の鬱を流さず夕立過ぐ